

キューバは、米国によるベネズエラへの卑劣な攻撃を強く非難し、この姉妹国を全面的支持する

### 革命政府の声明

革命政府は、米国によるベネズエラへの軍事侵略を最も強い言葉で非難すると同時に、キューバが姉妹国であるベネズエラ共和国とその政府を断固として全面的に支持し、連帯することを改めて表明する。副大統領デルシー・ロドリゲス氏の演説を支持し、米国政府が憲法上の大統領ニコラス・マドゥーロ・モロスおよびシリア・フローレスの生存を証明すること、ならびにボリーバル主義およびチャベス主義の政府とその国民が侵略を拒否し、独立と主権を擁護する決意を支持する。

米国の卑劣な侵略は、国際法および国連憲章に違反する犯罪行為である。これは、米国が長年にわたりこの姉妹国に対して続けてきた戦争キャンペーンの危険なエスカレーションであり、2025年9月以来、虚偽の口実と根拠のない非難のもと、カリブ海における攻撃的な海軍展開によって激化している。

キューバは、米国当局によるニコラス・マドゥーロ・モロス大統領とシリア・フローレスの即時解放を強く要求する。

これは、支配を目的とした露骨な帝国主義的かつファシスト的な侵略であり、モンロー主義に根ざした、私たちのアメリカ大陸に対する米国の覇権的野望と、ベネズエラおよびこの地域の天然資源に対する無制限のアクセスと支配という目標を再び実現しようとするものである。また、ラテンアメリカおよびカリブ海の各国政府を威嚇し、屈服させることも目的としている。

この無責任な行為の結果は、これから明らかになるだろう。米国政府、ドナルド・特朗普大統領、国務長官、そして米国で大きな政治的影響力を獲得している、ラテンアメリカおよびカリブ海地域に対する攻撃的で敵対的な要素は、この攻撃によってすでに引き起こされた、そして今後引き起こされる可能性のある死、人的・物的損害について、全責任を負うべきである。

この地域の各国政府は、2014年1月にハバナで、国民を代表して「ラテンアメリカ・カリブ海地域を平和地帯とする宣言」に満場一致で署名したが、この願望は今日、米国による攻撃にさらされている。

国際社会は、国連加盟国に対するこのような性質と重大性の侵略、主権国家の合法的かつ現職の大統領を軍事作戦で拉致し、何の罰も受けないことを許してはならない。ベネズエラは平和的な国であり、米国やその他の国々を攻撃したことは一度もない。

その姉妹国とその国民のために、我々はキューバの場合と同様、自らの血さえも捧げる覚悟がある。

革命政府は、世界中のすべての政府、議会、社会運動、そして人々に、米国によるベネズエラへの軍事侵略を非難し、国際的な平和と安全を脅かし、世界、特にラテンアメリカとカリブ海地域における米国の帝国主義的支配の新たなドクトリンを押し付けようとするこの国家テロ行為に立ち向かうよう呼びかける。

この地域のすべての国々は警戒すべきだ。この脅威はすべての国々に降りかかるからだ。キューバでは、戦うという我々の決意は揺るぎない。決断はただひとつだ。祖国か死か。

我々は勝利する！

ハバナ、2026年1月3日